

第1回 京都市レジリエンス推進本部会議の開催について

～都市レジリエンスの構築に向けた全庁的な取組をスタートさせます～

昨年5月、京都市は、アメリカの慈善事業団体であるロックフェラー財団（以下「財団」という。）により創設された「100のレジリエント・シティ※¹」（以下「100RC」という。）のプロジェクトに参加する世界100都市の1つに選定されました。

この度、4月1日付けで藤田裕之 前京都市副市長をCRO※²（Chief Resilience Officer：レジリエント・シティ京都市統括監）として任命したことに続き、全庁的な推進体制として、「京都市レジリエンス推進本部」を新たに設置しますので、お知らせします。

これを機に、京都市における都市レジリエンス構築に向けた指針となる「京都市レジリエンス戦略」（以下「戦略」という。）の策定から実行までの取組を本格的に推進するとともに、あらゆる場面を通じて市民の皆様等への周知を進めてまいります。

※1 「レジリエント・シティ」：

あらゆる自然災害やテロ、サイバー攻撃といった混乱等に耐え、可能な限り早急に復旧し、より強靱になっていく都市。財団が2013年から3箇年をかけて世界の100都市を選定し、レジリエンスの構築に向けた財政的、技術的支援等を提供

※2 CRO：

100RCがすべての加盟都市において設置を必須としている職位。京都市において戦略を策定及び実行するとともに、庁内外の多様なステークホルダー（関係者）とのレジリエンスについての対話を促進する。また、京都市が持つ資源を都市レジリエンス構築のために総合的に活用できるよう、市長及び各部局等に対し必要な助言等を行う。

記

1 日時

平成29年4月26日（水）午前9時30分～午前10時（予定）

（当会議は「第1回『文化首都・京都』推進本部会議」後に開催します。）

2 場所

京都市役所消防庁舎 7階 作戦室

3 内容

- (1) 本部長（市長）あいさつ
- (2) 「レジリエント・シティ」の取組について
- (3) CROとしての今後の取組について

4 出席者

裏面「京都市レジリエンス推進本部」構成員のとおり

※ 報道機関の方には記者席を御用意します。

京都市レジリエンス推進本部 構成員

構 成 員		氏 名
本 部 長	市長	門 川 大 作
副 本 部 長	レジリエント・シティ京都市統括監	藤 田 裕 之
	副市長	岡 田 憲 和
		村 上 圭 子
		植 村 哲
本 部 員	教育長	在 田 正 秀
	公営企業管理者交通局長	山 本 耕 治
	公営企業管理者上下水道局長	山 添 洋 司
	会計管理者	鷲 頭 雅 浩
	文化芸術政策監	平 竹 耕 三
	危機管理監	松 本 重 雄
	監察監	長谷川 一 樹
	観光政策監	糟 谷 範 子
	環境政策局長	山 田 哲 士
	行財政局長	田 中 照 人
	財政担当局長	岩 崎 清
	総合企画局長	藤 原 正 行
	文化市民局長	吉 田 良比呂
	産業観光局長	上 田 誠
	保健福祉局長	高 城 順 一
	子ども若者はぐくみ局長	久 保 敦
	都市計画局長	鈴 木 章一郎
	建設局長	鈴 木 知 史
	消防局長	荒 木 俊 晴
	交通局次長	山 本 登志一
	上下水道局次長	向 畑 秀 樹
	教育次長	稲 田 新 吾
	市会事務局長	古 瀬 ゆかり
	選挙管理委員会事務局長	吉 川 昌 弘
	監査事務局長	松 田 一 成
	人事委員会事務局長	松 本 建 次
	北区長	松 本 和加子
	上京区長	林 建 志
	左京区長	浅 野 信 之
	中京区長	池 田 健
	東山区長	市 田 佳 之
	山科区長	堀 池 雅 彦
	下京区長	廣 野 貴 夫
	南区長	内 山 修
	右京区長	西 田 哲 郎
	西京区長	平 井 義 也
	洛西担当区長	石 原 敏 彦
	伏見区長	馬屋原 宏
	深草担当区長	岩 井 英 人
	醍醐担当区長	三 宅 英 知